



谷 地 川

谷地川

八王子の北を流れる川で、戸吹町根小屋の上流を水源とし、加住丘陵を東南に流れる。小宮町から日野市へ出て多摩川に注ぐ、長さ十五・九km、流域十八・二kmの一級河川である。以前の川は蛇行が多く、雨が降り続くと河川の氾濫が多発していた。現在では、ほぼ一直線に河川改修され、川に沿って滝山街道が走る。

この河川流域には、太古から人々の営みが連綿と続いてきた。中世では戦国時代大石氏の居城として知られる根小屋、高月、滝山等々城も多い。そして大石氏に続く北条氏は、寺院を初め宿場の町造りに着手し、今の八王子の基礎ともいえる街並みを築き、諸所に当時の名を留めている。

谷地の地名は、谷治、谷慈とも記され、谷地川は別名「石川」とも呼ばれていた。

◇散歩のみどころ

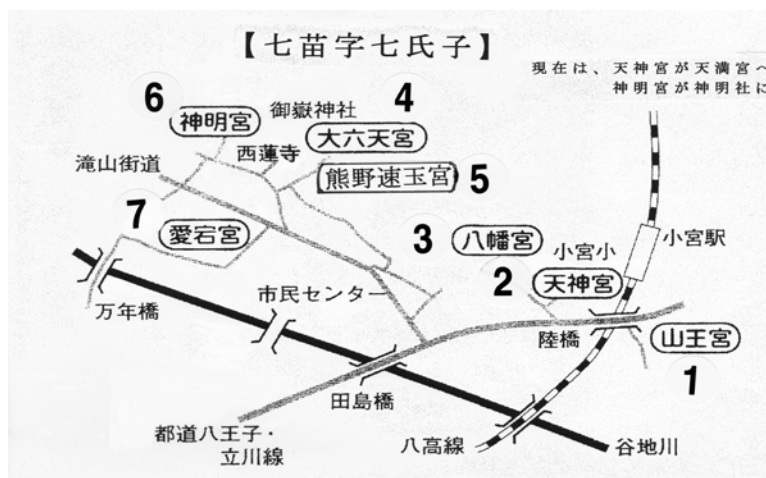
JR八高線小宮駅から新旧の谷地川を中心に凡そ5kmの行程。

小宮駅から都道五十九号線に出て少し下り、右に折れて「七苗字七氏子」が奉られる祠や龍頭の獅子舞で有名な御獄神社、西連寺へと辿る。そこから都道百六十九号線を横断し、旧谷地川の緑地や新谷地川の遊歩道を上流に向かって歩く。再び都道百六十九号線を横切り、野道を歩いて名工立川家へ。さらに、八王子バイパスの歩道を西に歩き、途中から右へ折れると瀬沼家である。旗本用人で「瀬沼日記」が残されている。ここから市文化財指定「文和の板碑」が保存されている龍光寺、報恩弥陀院へと廻りお参りをする。さらに、八王子バイパスを横断し埼玉神社へ。参詣のあと、谷地川遊歩道を下りながら青木橋近くのバス停で解散。

①七苗字七氏子

石川町には、ふるさとの話として伝わる「七苗字七氏子」がある。石川町は古くから開けた土地で、七つの氏族が共に栄え、平安末期の帝（みかど）にかかわる由緒ある血筋ともいわれていた。また、一説では、甲斐武田家と同じ、新羅三郎の流れともいわれているが詳しい記録は残っていない。

文化二年（一八〇五）に石川村が台風で全滅してしまったため、再びそのような災害に見舞われないように守護してもらうために奉祭したという。石川村に住む七つの姓の家にそれぞれ一つずつの氏神さまがあり現在も残されている。



●一、山王宮（和田姓）

滋賀県大津市坂本の日吉（ひえ）神社の別称。その名称の由来は、最澄が大和国三宝山の大三輪神すなわち大物主神を勧請し、中国の天台山国清寺の山王祠にならって神号を山王と奉り、比叡山の守護神としたのが始まりという。



山王宮



二つの祠

●二、天満宮（立川姓）

菅原道真を祭神とする。天満宮、天満神社、天神社、菅原神社などと呼ばれ、全国に分社されている。宗祀社は、北野天満宮と太宰府天満宮である。天満とは、道真に追諡（ついし）された神号、天満自在天神による。



天満宮



●三、八幡宮（内田姓）

八幡神を祀った神社。菩薩号を付して八幡大菩薩と呼び、八幡神を彦火火出見（ひこほほでみ）尊とする説もある。普通は応神天皇、比売（ひめ）神、神功皇后の三神を祭神としている。

八幡神が祀られたのは、欽明朝（奈良時代とも）の宇佐神宮が初めて、天安三年（八五九）清和天皇が石清水八幡宮に分霊、諸源氏の氏神として尊崇された。その後、源頼朝が鶴岡八幡宮に分祀して以後、全国の武士、庶民の間に分社、末社が広まった。神仏習合による信仰が古く、本地を阿弥陀仏とする例が多い。また、武神としても信仰され、社殿は八幡造りが通例である。

●四、大(第)六天宮(金子姓)

生死輪廻する三界(欲界・色界・無界)のうちの欲界の六天で、他化自在(たけじざい)天・化樂(けらく)天・兜率(とそつ)天・夜摩(やま)天・忉利(とうり)天・四大王衆(しだいおうしゅう)天を指す。



八幡宮



大六天宮奥社祠



右：大六天宮 左：熊野速玉宮

●五、熊野速玉宮(串田姓)

熊野三社の一つ。熊野坐(くまのにます)神社、熊野速玉神社、熊野那智神社の三社で、速玉神社は、和歌山県新宮市にある元官幣大社(もとかんぺいたいしゃ)である。



熊野速玉宮

●六、神明社(沢田姓)

伊勢神宮を勧請、分祠した社。中世以来伊勢信仰が流布し、各地の伊勢神宮の御厨(みくりや)や御園な

どを中心に御師が活動、分神社が増えていった。祭神は、皇大神宮、豊受大神宮双方か、一方だけを奉ず。「天地神明」の言葉は、神の意である。



神明社（宮）



神明社（宮）鳥居



愛宕宮

●七、愛宕宮（池田姓）

京都市西部、愛宕山上の愛宕神社を中心とする信仰。平安京北西隅の王城鎮護の神として祀られた。その祭神が、迦具土神。火の神であるので、民間では火伏せの神として信仰され各地に広く分布している。

②石川の御嶽神社

石川町一丁目

祭神 日本武命

開創 西蓮寺中興開山

権大僧都・頼重和尚

例祭 九月第三土・日曜日

龍頭の獅子舞、石川鯨獅子舞

天正元年（一五七三）癸酉（みずのととり）年二月十八日、西蓮寺中興開山権大僧都（ごんのだいそうづ）・頼重和尚により拝殿を再建し、祈念の獅子舞を初めて奉納したもの。慶安三年（一六五〇）十月十七日社領七石五斗のご朱印地を賜わる。

古くは、御嶽大権現の名称で真言宗智山派の金東山薬王院西蓮寺において管理していたが、明治六年（一八七三）御嶽神社と改名して独立した。境内には、八坂神社、大六天神社、熊野速玉宮等がある。



奥 社



御嶽神社

●龍頭の舞

御嶽神社拝殿を再建し、その祈念日に獅子舞を初めて奉納して以来、連綿と四百年余を超えて伝承されており、市文化財に指定されている。毎年九月に石川の龍頭の舞が御嶽神社と西蓮寺の境内で「五穀豊穰・病魔退散・悪病除」を祈って奉納される。八王子市の九つの地区に三匹獅子があり、石川と加住梅坪の獅子舞は似ている。春の梅坪、秋の石川といい、同じルーツとされている。

御嶽神社の獅子舞は、他所と異なり、頭に二本の角を有し龍頭であって獅子ではなく、仏教における八大龍王の姿を取り入れたものであるという。また、さらの動きが他のところと比べ激しいといわれている。



三拍子の一場面



太刀掛かりの一場面

龍頭の舞

③金東山薬王院西蓮寺

宗派 真言宗 智山派

本尊 大日如来

開山 頼重法印

開創 天正元年（一五七三）以前

石川町十三

多磨四国八十八ヶ所霊場第八十一番札所である。本尊は、新編武蔵風土記稿によれば不動明王と記載があるが、現在は大日如来となっている。



龍頭の舞
(龍が太刀を欲求している場面)

また同稿に「石川村内に、薬師堂、観音堂二ヶ所、彌勒堂、地藏堂、大日堂の諸堂があった」と記されているが、今は薬師堂のみが現存する。各堂宇の仏像は現本堂内に安置されている。徳川幕府より御朱印七石五斗を賜り、朱印状が現存している。前本堂は正保二年（一六四五）頃火災により焼失。一時無住の寺となっていたが、中興開山法幢法印（享和三年（一八〇三）寂）時代に再建された。しかし近年老朽化が激しく、平成十年再建された。本堂内陣には、中央の厨子に御本尊大日如来坐像、右の厨子に宗祖空海上人弘法大師、左の厨子に中興寛上人興教大師兩位牌堂があり、中央に如意輪観音菩薩像が安置されている。



弘法大師



本尊・大日如来



西蓮寺本堂



如意輪観音



興教大師



西蓮寺薬師堂

●西蓮寺の薬師堂

新編武蔵風土記稿に、「薬師堂ハ本堂西ノ側ニアリ三間に二間半 薬師ハ坐像ニシテ長一尺五寸ナリ」とある。薬師如来坐像の左右に菩薩像と十二神将が並ぶ。十二神将は金泥彩色と思われる造形で古色蒼然の姿をとどめている。毎年五月には「薬師法会」が行われている。

●西蓮寺墓地と共同墓地

西蓮寺から少し南へ行った都道百六十九号線の石川宮下バス停付近にある。墓地の中央には、高さ一m程の地藏尊が安置されている。かつての地藏堂の中にあつた一つではないかといわれている。また、墓地入口には徳本上人の石碑も建っている。



中央：薬師如来
左右：菩薩像



墓地にある地藏様



墓地（西蓮寺南）



墓地入口にある石碑



為則小学校（いそくしょうがっこう）

●小宮村の学校発祥地

西蓮寺は、八王子市立第八小学校の発祥の地であり、学制発布により明治六年（一八七三）に三和学校として境内に開設され、明治二十五年（一八九二）為則尋常学校と改称。明治四十一年（一九〇八）大和田、西中野と統合し、現在地に小宮尋常小学校として開校した旧小宮村で最初に出来た歴史ある小学校である。

④石川市民センター

市民センターは、旧小名六反田にある。六反田の謂われは、大地主が六人いたことから伝えられている。六反田は、滝山街道から谷地川までと、田島橋北側より西側谷地川（現遊歩道）辺りまで。この辺は丘陵地で、江戸時代前期（一六〇〇年代）に陸地測量部の地図並び江戸時代の絵図に記されている。

江戸時代中期（一七〇〇年代）に入り八代将軍吉宗より武蔵野農地拡張の指示があり、谷地川の万年橋に堰を造り、六反田に水を引き入れ稲作が盛んに行われるようになった。昭和三十年代まで続いたという。

明治時代には、農家が増加して養蚕も盛んになり、六反田に共同の乾燥場を作り、繭を乾燥した。場所は現在の石川市民センターのところに建てられていたという。



水車小屋（絵）

六反田の田んぼづくり（昭和40年代）



⑤谷地川

川の源は戸吹町にあり、滝山街道に沿って南東に流れ、日野市内で多摩川と合流する。一級河川でその延長は十二・九km、流域面積は十八・二km²と都内では中規模の河川である。加住町の龍源寺にある室町時代の板碑に「谷慈郷」と刻まれており、谷地川は「谷慈郷」を流れる川からつけられたと謂われている。旧谷地川は蛇行の激しい川で有名であったが、改修工事により旧河川敷は遊歩道に変わった。



谷地川緑道（旧谷地川）
鶴巻橋上流

⑥立川近作藤原正祐宅

宇津木町

立川家は四代に渡り、名工といわれたほどの大工で、二代目近作（ちかさく）は江戸時代に成田山新勝寺の造営や、比叡山寛永寺修築などの大棟梁として見事な腕を振るったという。当時の本堂の絵図面や落成式に着用した袴（かみしも）や長袴、記念に頂いた菊の紋章入りの墨壺や手斧（ちょうな）等が保存されている。



谷地川（万年橋付近）
昭和60年3月完成



墨 壺



手斧(ちょうな)

立川宮大工

⑦瀬沼三左衛門宅

瀬沼日記の筆者瀬沼三左衛門は、高家前田信濃守知行地、武州多摩郡宇津木村の名主であると同時に、前田家の勝手賄い方用人として、月のうちの半分を江戸屋敷で、また半分会津木村にあつて名主としての役割を努めた人物である。

瀬沼三左衛門日記とは、文政四年（一八二一）一月から途中十二ヶ月分の欠けがあるものの、文政十三年（一八三〇）十二月まで十ヶ年間の瀬沼三左衛門の江戸における高家・前田家の用人としての執務日記である。日記の価値を要約すると、三点にある。

- ・日記に詳細に記録された高家の生活と、その公務。
- ・知行主と、知行地である村落とそこに生活している農民との関係。
- ・その中間にあつて、地行主である前田家の用人を勤めながら、その知行村落の名主としての二面性を持つ、

新しいタイプの地頭役人の出現。

この役割は、逼迫した旗本財政を支えるために、知行地の有力な名主を勝手賄い方用人として召し上げ、年貢の徴収を始め、各種の上納金の円滑な徴収を図るために考え出されたもので、この新たな役職についての考察はあまり注目されたことはない。この日記は、旗本の財政に関する内側からの記録であり、旗本と村落の間にあつて目立たないが重要な人物の記録でもあり、このような人物によつて幕藩体制の末端が機能していたといえる。

先祖は清和源氏の流れをくむ多田氏を祖とし、八王子千人頭石塚家と祖を同じくする。宇津木村に來住するまで甲斐の国に住み、武田氏に仕えた。天正十年（一五八二）武田氏滅亡後、当地へ來住した。

⑧ 増寶山報恩彌陀院

宗派 真言宗 智山派
本尊 阿弥陀如来

開基 祖興教大師 阿彌陀如来
開創 平成元年
当院は、本寺増寶山龍光寺末として平成元年初頭に創建された。興教大師（覺鑊上人）は、はその時代の社会に阿弥陀信仰を祖師弘法大師信



旗本用人瀬沼三左衛門宅

仰と共に風靡させた祖師。阿弥陀如来信仰は宗旨に限定されず、現代社会に生命の尊さを知らせ、成仏の真意を悟らせ、仏の心を甦らせ吾々に生きる道標を教え示されている。ここには、旗本用人瀬沼三左衛門と瀬沼家のお墓がある。



本尊 阿弥陀如来



報恩彌陀院本堂



旗本用人瀬沼三左衛門と瀬沼家のお墓

⑨ 増寶山密嚴院龍光寺

宇津木町七三八

宗派 真言宗 智山派

本尊 大日如来

寺宝 文和の板碑（市文化財）

金銅孔雀文聲平安中期作

鰐口長享三年（一四八九）銘

開山 法印清雅和上

開創 室町時代中期以降

瀧山広陵の中腹を背にし、存立している龍光寺は室町時代中期以降に創建された寺で、約六百五十年以上の歴史を持つ多摩の古刹として広く知られている。

東密三宝院の支流松橋流の醍醐無量寿院法印俊盛和上より法咏を受けた法印清雅和上は、応永三年（一三九六）示寂。創建は、文和末期より応永の初期あたりと思われる、開山第一世である。

滝山城が北条氏照の代には、当山が祈願寺として専ら庇護された時代もあり、御朱印二十石、除地千百坪

を賜わった。中興第二世隆尊和上の代には隆盛を極め、本堂はじめ大伽藍を建立。中本寺として末寺二十一ヶ所を持ち、寺格に相応しい時代を過した。多磨四国八十八ヶ所霊場第七十九番札所である。



山 門



本 堂



弘法大師（御修行）御尊像



本尊 大日如来尊像

●文和の時宗板碑

龍光寺本堂前に立っている。市内の完成品として最も大きく、高さ百六十八cm、幅四十三cm、厚さ五cm。郷土資料館にレプリカを展示。この板碑は時宗・二祖・他阿（たあ）上人の三十五年忌に造立したと伝える六字名号板碑で、時宗板碑の代表的作品。石質、保存ともに良く、身部を枠線で囲み、中央に大きく蓮座上に楷書で「南無阿弥陀仏」の名号が彫られている。独特の交差を彫り残す薬研彫の刀法で刻し、下部三分の二周辺に百六人の阿号の供養者名が配置されている。刻まれた内容は、時宗帰依者の結衆板碑として貴重な資料である。大正初年頃までは谷地川沿いにあった。



板碑（青石塔婆）

●宝篋印塔

宝篋印陀羅尼經を奉納した筐のこをいう。この印塔は、第二十一世寛英和上が寛政十一年（一七七九）三月建立したもの。五m以上もある印塔は、長年の風雨により破損部分が増えたため、昭和五十八年に一部を解体修理した。この時、寛英住職が奉納した約二百余年前の貴重な文献などが発見されている。



宝篋印塔



文和の時宗板碑

⑩埼玉神社

勸請 元久二年（一二〇五）
祭神 大己貴命・大照女貴命・
伊弉諾尊・伊弉冉尊・

宇津木町

猿田彦命・応神天日王

例祭 九月十九日

埼玉神社は、谷慈の庄が開かれた頃から村の鎮守で「埼玉さま」と呼ばれ村の衆に親しまれている。今でも古式の湯立てなどの神事が行われている。明治三十五年（一九〇二）、宇津木村内にあった青木八幡社・中村裏天照神社・権水無日枝神社・久保山西青木神社の五社が合祀されている。新編武蔵風土記稿には、応永二年（一三九五）銘の鰐口が残されていたと伝えられているが、現在所在不明である。

青木神社は、代官青木将監の娘を祀ったものと伝えられている。拝殿入口には、動物の絵馬が沢山奉納されている。



埼玉神社



鳥 居



五社の祠



絵馬

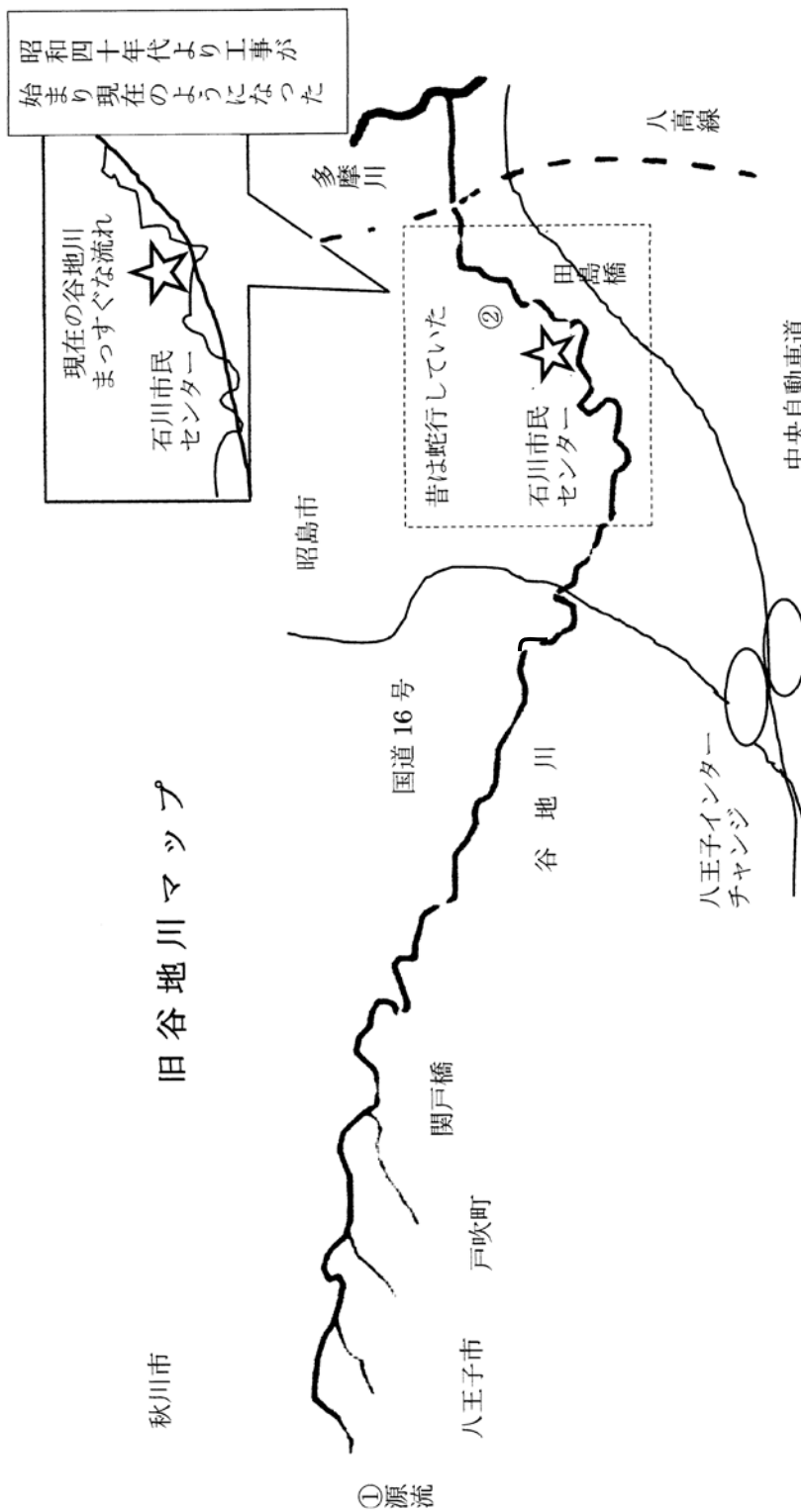


右：日枝神社 伊弉諾尊
伊弉冊尊
左：青木神社 猿田彦命



右：八幡神社 応神天皇
左：天照神社 天照大日靈尊

旧谷地川マップ



◎主な参考文献

- ・新編武蔵風土記稿
- ・小宮町会五十年のあゆみ
- ・石川町会五十周年記念誌
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子仏教協会青年部
- ・西蓮寺パンフレット・龍光寺資料
- ・龍光寺パンフレット
- ・瀬沼三左衛門日記・当家資料
- ・郷土資料館資料
- ・八王子事典
- ・八王子市史
- ・八王子地名考
- ・歴史散歩辞典
- ・民族探訪辞典
- ・武蔵名勝図会
- ・インターネット各ページ
- ・獅子の物語
- ・東京の三匹の獅子舞
- ・（峰岸三喜蔵写真集より）

[illegible]